

大阪府高槻市

【計画期間 平成29年7月～35年3月(5年9ヶ月)】

・戦国時代には高山右近が、江戸時代には永井氏が高槻城主として治め、西国街道の中継地点として発展した。
・明治以降は鉄道や国道等の幹線交通網が整備され、高度経済成長期には大阪や京都のベッドタウンとして宅地開発が進んだ。
・平成15年に中核市に移行、人口354,021人(平成29年1月末現在)、面積105.29km²

【前計画の概要】

- JR高槻駅北東地区における大学・市民開放型施設や大規模集合住宅等のハード整備と併せて、大型商業施設と商店街の連携による販売促進等を実施。
- 北東地区からその他の地区への回遊性の向上を図り、波及効果を創出することで、商業集積の吸引力の増進を目指した。
(計画期間:平成21年12月～平成27年3月)

【中心市街地の変化】

- JR高槻駅北東地区に大学、病院、大規模集合住宅等の都市機能が整備されたことで、市の人口が減少傾向にある中、中心市街地の居住人口は増加した。
- 従前から展開されてきた「高槻まつり」や「高槻ジャズストリート」等の大規模イベントに加え、新たな市民有志グループによるにぎわいづくりの活動も生まれている。
- 一方で、北東地区の効果をエリア全体に波及させることができず、目標指標「歩行者通行量」及び「小売業年間商品販売額」は目標達成には至らなかった。

【目指す中心市街地像】

訪れたい、住んでみたいまち **高槻** ～生活を楽しむ交流空間 『高槻まちなか』～

【前計画目標】

目 標	目 標 指 標	基 準 値 (H19)	目 標 値 (H26)	実 績 値 (H26)
中心市街地内の回遊性の向上	歩行者通行量	57,642人/日	62,000人/日	55,986人/日
商業の質の向上による商業集積の吸引力の増進	小売業年間商品販売額	865億円/年	870億円/年	776億円/年

【新計画目標】

目 標	目 標 指 標	基 準 値	目 標 値
来街機会の増加と回遊性の向上	歩行者・自転車通行量	72,970人/日 (H28)	77,300人/日 (H34)
	歴史・文化施設の年間利用者数	161,601人/年 (H26)	197,000人/年 (H34)
経済活力の増進	中心市街地の新規出店数	30件 (H22-H27の累計)	51件 (H29-H34の累計)

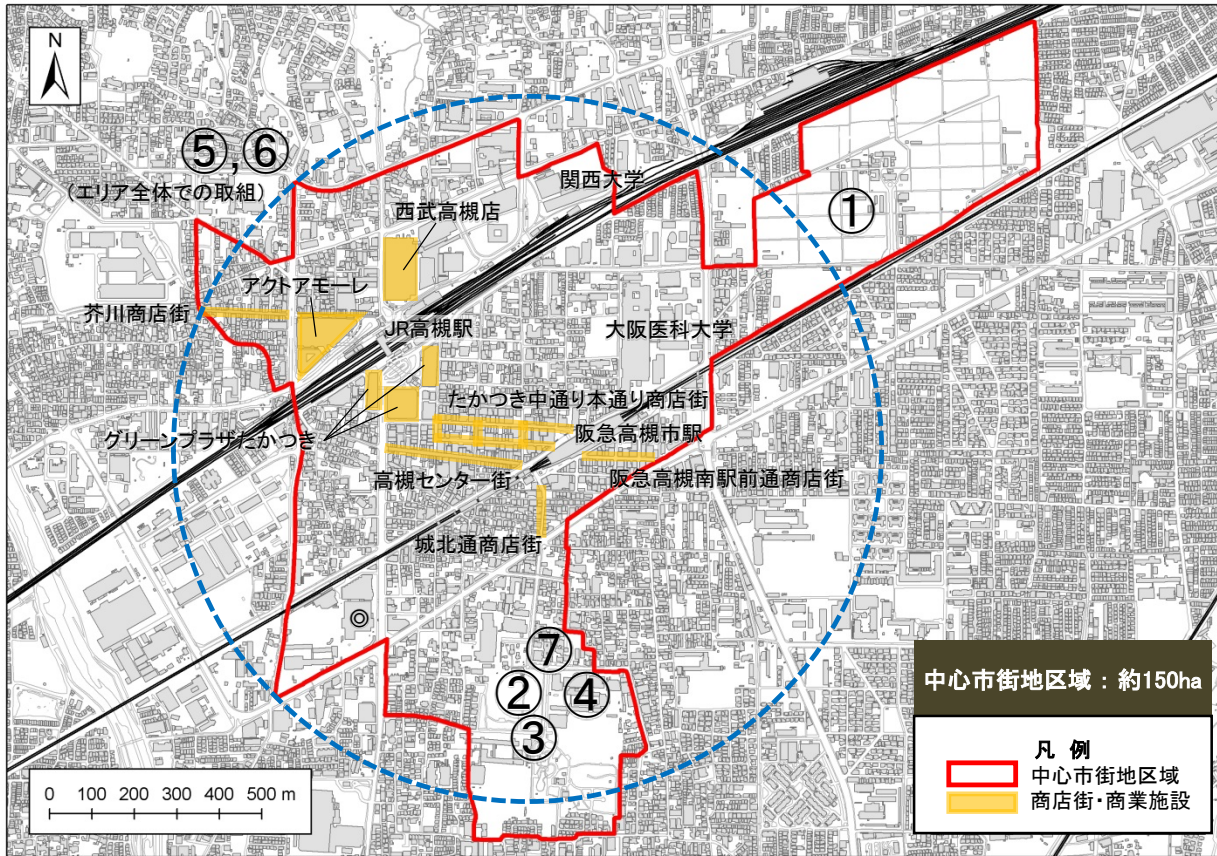
来街機会の増加と回遊性の向上

- ・安満遺跡公園整備事業
- ・市民会館建替事業
- ・城跡公園再整備事業
- ・歴史・文化施設間の連携による集客性向上事業
- ・安満遺跡公園等へのアクセス強化
- ・城跡公園等へのアクセス強化 など

経済活力の増進

- ・魅力ある個店への出店支援
- ・空き店舗等情報ストックバンク事業
- ・たかつき創業塾の開催
- ・商店街と百貨店の連携による集客事業
- ・宿泊施設(ホテル)の誘致活動
- ・ご当地グルメを活用した魅力発信 など

高槻市中心市街地活性化基本計画(案)の事業概要



経済活力の増進

⑤魅力ある個店への出店支援

中心市街地において出店意向のある事業者に対して店舗改装費の補助支援を行うとともに、出店後も商工会議所と連携を図りながらPRや経営面のサポートを行うことで、継続的な中心市街地の魅力づくりに取り組む。

⑥空き店舗等情報ストックバンク事業

中心市街地の空き店舗や空き倉庫等の情報を収集し、一元的に管理することで、中心市街地の空き店舗等の利活用を促進する。

⑦たかつき創業塾の開催

創業希望者向け連続セミナーを開催し、にぎわいにつながる創業者の創出を図る。

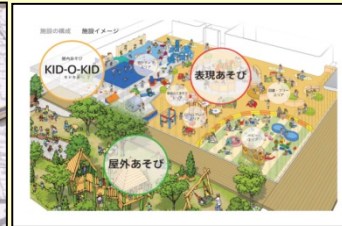
来街機会の増加と回遊性の向上

あま ①安満遺跡公園整備事業

京大農場跡地を含めた一帯を「安満遺跡公園」として整備し、エリア東部の集客拠点として中心市街地への来街機会の創出や回遊性の強化を図る。



【公園イメージ】



【子どもの遊び施設イメージ】

②市民会館建替事業

文化振興の発展に資する施設に建てかえ、隣接する城跡公園とともに、中心市街地エリア南部の交流拠点としての強化を図る。



しろあと ③城跡公園再整備事業

市民会館の建替にあわせて、城跡公園の公園区域を拡大し、中心市街地における貴重な緑空間としての魅力を高め、新たな来訪客層を取り込むため整備する。

④歴史・文化施設間の連携による集客性向上事業

文化施設である市民会館と歴史施設である市立しろあと歴史館が連携して相互情報発信等を行うことで、互いの集客力を高め、にぎわいの創出を図る。